

雲仙被災動物 360頭保護

里親募集!!

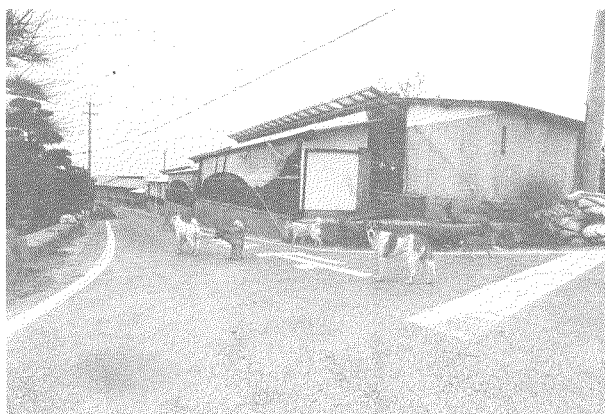
里親へ260頭犬60頭 猫25匹

今も犬舎に



雲仙普賢岳噴火以来、被災地には多くの動物が取り残されてきました。そして相当数の動物が火砕流や土石流に飲み込まれ、また飢えや病気で命を落としたのです。被災動物を救う会では、そうしたあてもなくさまよう動物たちの保護を、昨年6月5日、あの大火砕流直後より続けてきました。

私たちの会は小さく、力不足ながらも、これまで犬猫360頭保護し、新しい家庭（里親さん）で暮らす動物は260頭にのぼります。しかしまだ犬60頭・猫25匹が仮犬舎での避難生活を余儀なくされ、100頭の動物が放浪を続けています。



二次災害の発生

現在、私たちの前には大きな問題が新たに発生しています。二次災害とでもいうべき小犬・子猫たちの存在です。仮犬舎には頻繁に、放浪する動物たちの、あるいは住民に運よく保護された動物の子供達が運び込まれています。被災地では自然交配による子供達が、私たちの飼育能力以上に増え続けているのです。

そして犬舎・猫舎は満杯に達しています。しかし、こうして犬舎に迎え入れられる子供たちは幸せです。彼らはいずれ暖かい家庭で過ごすことができるからです。被災地では、次の最も危惧される状況にしばしば出会います。強い警戒心を持った母親の子は、決して人間には近づこうとせず、野生化してしまうのです。このままでは彼らは里子に出せないばかりか、害獣として捕獲・殺処分の対象とされてしまいます。そして、どんなに私たちが動物を保護しても、はてしなく被災地の動物は増え続け、私たちの力あることがわかりました。しかし犬舎はすでに収容限度を超え、残された動物たちの受け入れを阻んでいます。今後、同じ状況に置かれた動物たちがどれだけ多く救われるかは、どれだけの動物が里親に迎えられるかに掛かっています。



が尽きた時点で彼らは死を迎えることになります。

こうした事態を極力避けるため、最近では強制捕獲（餌付けに頼らず捕獲器で捕獲すること）を試みています。その中で捕獲自体は比較的容易で